

九州ブロック

1. プログラム詳細

【日程】

< 1日目 >

13:30 ~ 13:45	(15)	開会 ・主催者挨拶:内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全啓発担当参事官補佐 茅根 弘幸 ・来賓挨拶:鹿児島県男女共同参画局くらし共生協働課 くらし安全対策監 福丸 竜市 ・講師、コーディネーター紹介
13:45 ~ 14:45	(60)	講演 「高齢者(運転者も含めた)に対する交通安全の動機づけ」 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男
14:45 ~ 15:00	(15)	休憩
15:00 ~ 16:00	(60)	活動事例発表 福岡県交通安全母の会「北九州市活動報告」 福岡県交通安全母の会連絡協議会 中村 啓子 子ども達を見守る母の立場で 佐賀県地域婦人会交通安全母の会 会長 三苦 紀美子 和水町交通安全母の会の活動について 熊本県和水町交通安全母の会 会長 菊川 ヨリ子 事故をなくして安全な町に 鹿児島県奄美市住用町交通安全母の会 会長 山田 千代子
16:00 ~ 16:15	(15)	休憩
16:15 ~ 16:50	(35)	グループ別交流 (グループ討議での役割分担等)
16:50 ~ 17:00	(10)	事務連絡等

< 2日目 >

8:40～9:00	(20)	受付
9:00～10:00	(60)	講演 「地域の安全は、人々との“笑顔”から」 金沢星稜大学 人間科学部 教授 池田 幸應
10:00～11:15	(75)	グループ討議 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応(1) 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応(2) 通学時間帯の街頭活動における課題と対応 ボランティア団体の運営における課題と対応
11:15～11:45	(30)	グループ討議結果発表
11:45～11:55	(10)	講評 (コーディネーター：鈴木春男先生)
11:55～12:00	(5)	主催者からの連絡事項 ：内閣府
12:00		閉会

2. 講義等の記録

【1日目】

講演

「高齢者（運転者も含めた）に対する交通安全の動機づけ」

千葉大学 名誉教授 鈴木 春男

19ページの北海道ブロックでの講演録参照

活動事例発表

福岡県交通安全母の会「北九州市活動報告」

福岡県交通安全母の会連絡協議会 中村 啓子

ただいま紹介にあずかりました北九州市交通安全母の会の中村啓子と申します。よろしくお願いたします。さっそく活動報告等に入らせていただきます。北九州市は3区ありますので、私どもの区の活動状況をご報告いたします。

まず、指導者研修会の開催状況について報告いたします。昨年11月16日、福岡市にある福岡県警察の施設「ふっけいコアセンター」で、交通安全母の会のリーダー研修会があり、5名が参加しました。また、12月4日には、北九州市の戸畑生涯学習センターで警察の担当者を招いて生活安全に関するお話を聞きました。これには40名が参加しました。「ニセ電話架空請求詐欺」に関する注意点として、固定電話は必ず留守電にしておくこととよいと教えてもらいました。最近の死亡事故の現状についても話を聞きました。

今年の1月11日は、生涯学習センターで交通安全と防災に関する講座を開きました。小倉北区では毎年ミニ運動会を開催しており、午前中は運動会、午後は学習というプログラムで継続しています。今年は、警察署の交通安全課と消防署による講座でした。

3月3日は、黒崎ひびしんホールの「第33回チャリティ芸能まつり」に参加しました。芸能まつりの「命を守りたい」の部分で出演し、のぼり旗と「ヨシオ君」を紹介しました。「ヨシオ君」というのは、左右「よく見て」の「ヨ」、「信号をよく見て」の「シ」、「横断歩道を渡りましょう」の「オ」、それぞれの頭文字をとったものです。その「ヨシオ」君を擬人化して、「ヨシオ君、大丈夫？」といった調子で呼びかけています。会場に集まった600名の多くは高齢者でしたので、皆さんとともに声を出しながら、「ヨシオ君」の重要性を確認させていただきました。

次に、各区における活動について報告します。昨年4月5日、北九州市のウェルとばたの多目的ホールで、飲酒に関する正しい知識を普及させることをテーマにした講演会を開きました。30名ほどが参加し、啓発物などを配布しました。

4月6日には、JR小倉駅で春の交通安全県民街頭キャンペーンがありました。ここでも16名が参加して啓発物を配布しました。4月27日には、八幡西区の区役所内で交通安全推進協議会の総会に2名が参加しました。

7月10日は、やはりJR小倉駅で夏の交通安全県民運動街頭キャンペーンに16名が参加しました。翌11日も、JR黒崎駅のペDESTリアンデッキであった街頭キャンペーンに6名が参加しました。8月28日には、「リバーウォーク北九州」の飲酒運転撲滅街頭キャンペーンに20名が参加しました。

9月20日、同じリバーウォークで「秋の交通安全2018年フェアin北九州」が開催され、22名が参加しました。楽団や幼稚園児が参加する大変にぎやかなイベントでした。9月21日は、ウェルとばたで秋の交通安全県民運動の重点項目である飲酒運転の撲滅等と呼びかけました。

12月11日、JR小倉駅で、年末の交通安全県民運動キャンペーンの啓発活動に15名が参加しました。12月12日、JR戸畑駅周辺で交通安全の願いを込めてクリスマスツリーの点灯式を行い、ドライバーへ赤、青、黄色のお餅を配って交通ルールの遵守を呼びかけました。このイベントには30名ぐらいが参加しました。年明けの1月11日は、交通安全を願う祈願祭を実施し、交通安全の協力者表彰を行いました。

このほか、母の会としては、1年を通して各地域で早朝交通安全指導と車でのパトロール

を実施しています。北九州市交通安全母の会は、 交道德の順守 交通事故防止の呼びかけ 交通安全研修や講習、街頭キャンペーン等の積極的実施 など毎年活動計画に組み入れ、子どもや高齢者が悲惨な交通事故等の危険にさらされないよう見守りを続けています。以上です。

「子どもたちを見守る母の立場で」

佐賀県地域婦人会交通安全母の会 会長 三苫 紀美子

皆さん、こんにちは。佐賀県は、平成28年度の人口10万人あたりの交通事故が全国ワースト1でした。そこで最近、佐賀県が力を入れて取り組んでいることを皆さんにご紹介します。ひとつは、佐賀県の交通安全キャラクター「マニャー」です。交通マナーを守ることの大切さを訴えるネコの姿をした妖精です。

交通マナーアップを呼び掛ける「やめよう！ 佐賀のよかろうもん運転」のグッズもあります。「合図出さんでもよかろうもん」「信号まもらんでもよかろうもん」などの「よかろうもん運転」をやめようと、県が力を入れて制作しています。私たち佐賀県交通安全母の会としても、県とともにしっかりと取り組んで、他県の皆さんに追いつけるように頑張っていかなければならないと思っております。

ここ2年ほどはワースト1からは脱却しておりますが、いまだワースト圏内にあることに変わりはありません。交通情勢はいまだに危険水域にあります。佐賀県の交通事故の原因として最も多いのは前方不注意、次に安全不確認で、これらが人身事故の約50%を占めているということでございます。年齢層別の発生件数では20代が最も多く22.2%、65歳以上が21.9%、30歳代が15.1%になっています。乳幼児・小学生・中学生が関係した交通事故、高校生・若者が関係した交通事故、それに高齢者が関係した交通事故については、平成30年は発生件数や負傷者数は減少しましたが、まだまだ多い状態でございます。

高齢者の事故では、「マミムメモ」が大切です。安全が十分に確認できるまで「待(マ)つ」。周囲の状況を「見(ミ)る」。「無(ム)理せず」交差点などではとまる。反射材を着用して「目(メ)立つ」。目が悪くなったり足が悪かったりしますので、自分の機能を「も(モ)っとよくしよう」のマミムメモです

そして、先ほどの「やめよう！ 佐賀のよかろうもん運転」です。「合図出さんでもよかろうもん(合図なんか出さなくていいでしょ)」「信号守らんでもよかろうもん」「車間詰めてもよかろうもん」「スマホ使ってもよかろうもん」。これらは大変危険な運転です。繰り返えしになりますが、県が力を入れている取り組みに、私たちもしっかり協力して頑張りたいと思っております。

母の会の活動としましては、皆さんと同じように朝の立哨をしております。春や秋の交通安全週間等には毎朝立つように頑張ってくれていることは大変うれしいことでございます。朝の立哨の何がよいかというと、声かけです。私は、元気のない子には「朝ご飯食べてきた？」と話しかけます。食べてきたという返事があったら、「あ、そうね。じゃ、もっと元気出して」と励まします。このような会話をずっと続けていましたら、不登校児が2名ほど、「あのおばちゃんが立っとなるけ、学校へ行く」と言ってくれたそうです。たいした話はしてありません。その時々、感じたことを話すだけです。「今日は可愛い洋服着とる、おばちゃんにその洋服ちょうだい?」「入らんでしょう!」というような、そういうたわいない話です。

お母さんと一緒に登校中、学校に行きたくなくてぐずっている子がいました。その子のと

ころまで行きまして、「じゃ、これからおばちゃんと行ってみよう。これからお母さんのかわりはこのおばちゃんだ」と、毎日話しかけました。1週間ぐらい経つと、私の顔が見えたら、お母さんの手をパツと離して自分で歩いてくるようになりました。

どうということはないけれども、実の母親と同じ目線で他人の子どもを見られる。そのような私たち、交通安全母の会の活動の姿こそ、地域には絶対的に必要であると信じています。本当にたわいないことと思っても、保護者ができないこと、学校の先生ができないこと、行政ができないことはたくさんあるのです。それらをフォローできるのが、私たちではないかと思っております。

今後とも皆さんと一緒にあって、地域のために、子どもたちのために、高齢者のために、事故のない地域づくりのために、われわれ母の会は頑張ったいと思いますので、どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます、発表にかえさせていただきます。失礼いたしました。

「和水町交通安全母の会の活動について」

熊本県和水町交通安全母の会 会長 菊川 ヨリ子

皆さま、こんにちは。和水町交通安全母の活動について発表させていただきます。私は和水町交通安全母の会会長を務めております菊川と申します。何分こういう場は不慣れでございます。至らない点もあると思いますが、おつき合いのほどよろしくお願いいたします。

最初に和水町についてご説明させていただきます。和水町は熊本県北西部、福岡県と隣接する山間の町です。南北約19キロ、東西約9キロと南北に細長く、九州縦貫道菊水インターチェンジがあります。平成18年3月、旧菊水町、旧三加和町が合併して和水町となりました。令和元年8月31日現在、人口は9,939名、世帯数は3,853世帯、高齢化率は40.5%です。高齢化が進んでいます。

和水町は菊池川と緑の山々などの豊かな自然と、国指定史跡江田船山古墳や田中城跡など多くの歴史的資源に恵まれています。国指定史跡江田船山古墳から出土した200余りの品は、一括国宝として東京国立博物館に保管されています。

産業面では、米を初め野菜や果実等の農畜産物の生産が盛んです。2019年NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公の1人、金栗四三が生まれた町でもあり、金栗の生家が現存しています。金栗は日本マラソンの父と称され、日本人で初めてオリンピックに出場した選手です。生家から玉名北高等小学校までの往復12キロの道のりを毎日走って通学したそうです。大河ドラマ史上初めて主人公の生家でロケが行われました。

和水町の交通事故発生状況について報告します。町内で発生した交通事故件数は、直近5年間はおおむね減少傾向です。特に平成30年は事故発生が少なかったようです。和水町の住民が起こした交通事故件数の推移を見ますと、こちらもおおむね減少傾向で、平成30年は特に発生が少なかったようです。

和水町交通安全母の会についてご説明いたします。設立は昭和55年4月で、現在39年目を迎えております。「交通安全は家庭から」を合い言葉に活動し、現在の会員数は70名です。会員の多くが仕事をしながらの活動で、少ない人数ではありますが、一人ひとりが自分のできることを無理なく活動しています。

主な活動は、春の交通安全運動キャンペーン 交通安全教室 秋の交通安全運動キャンペーン ふれあい高齢者の集い 自転車教室 高齢者世帯訪問 の6つです。

毎年4、5月に実施される春の交通安全運動期間中に交通安全キャンペーンを実施しています。町、警察、交通安全協会、交通指導隊、地元保育園の年長の園児などと協力して実施します。写真は保育園の園児が啓発グッズを配布している様子です。母の会会員は園児に付き添い、ドライバーに交通安全を呼びかけます。最初は緊張ぎみだった園児たちも呼びかけの回数を重ねるごとに慣れてきて、大きな声で「安全運転お願いします」と言えるようになります。ドライバーの方も、園児たちの笑顔に添って、にっこりと笑顔になって運転して行かれます。母の会も子どもたちに負けないように安全運転を呼びかけています。

交通安全教室は町内の幼稚園と小学校で実施しています。玉名地区交通安全協会の交通安全教育講習指導員に講師をお願いし、母の会はそのサポートを行います。まず、交通安全教育は命を守る教育だということを全児童で学びます。続いて各学年に分かれ、小学校高学年は自転車の乗り方を勉強します。自転車の点検や安全な乗り方、交通ルールなどを実際に自転車に乗りながら勉強していきます。

小学校低学年は安全な道路の歩き方や横断歩道の渡り方を学びます。母の会の会員も子どもたちと一緒にやってみます。横断歩道の渡り方は、まず横断歩道の前でとまる 大きく右手を挙げる 右を見て、左を見て、もう一度右を見て 横断歩道を渡ります。この交通安全教室は、難しい交通ルールやマナーなどを楽しく勉強するよい機会になっていると思います。

秋の交通安全キャンペーンは、毎年9月に実施される秋の交通安全運動期間中に実施します。町、警察、交通安全協会、交通指導隊、地元小学校の1年生の児童などと協力して実施しています。写真は児童が啓発物を配布している様子です。母の会会員は児童に付き添い、ドライバーに交通安全を呼びかけます。子どもたちの笑顔でドライバーも笑顔になり、和やかな雰囲気になります。

「ふれあい高齢者の集い」は、町が敬老行事の一環として開催するものです。演劇や歌謡ショーがあり、毎年多くの参加者が来場されます。この来場者一人ひとりに交通事故防止を呼びかけます。秋になり夕暮れが早まってくることから、反射材などのグッズを配布するほか、早目の車のライト点灯も呼びかけています。

ふれあい高齢者の集いでは、玉名警察署から交通安全講話があります。ことしは「高齢者の交通事故防止について」と題して、反射材の利用推奨や安全運転サポートカーに関する説明がありました。母の会は会場入り口で、積極的に反射材の着用を呼びかけました。

自転車教室は、熊本県交通安全母の会が独自に実施している事業です。和水町においては、平成29年度に菊水東小学校3、4年生の児童9名に実施しました。当日はあいにくの雨で、体育館での実施となりました。

講師は玉名地区交通安全協会の交通安全教育講習指導員にお願いしました。まずは自転車に乗る前の点検からです。合い言葉は「ブ・タ・ハ・シャ・ベル」です。ブレーキ、タイヤ、ハンドル、車体、ベルを点検します。点検が終わると、ヘルメットをかぶってよいよ乗車です。

体育館内に専用のコースをつくり、子どもたちは実際に自転車に乗りながら標識などの交通ルールを学んでいきました。母の会は横断歩道や一旦停止などのポイントに立って指導にあたりました。「とまれ」の標識のあるところでは、一旦とまってしっかり確認し、渡るように指導。道路に障害物があるところ、例えば路上駐車のあるところではいったん自転車から降りて注意して進むように指導しました。

コースの最後はジグザグ走行です。初めのうちはうまく乗れなかった子どもたちですが、何度もコースを走るうちに上手に乗れるようになりました。この事業を通して子どもたちが交通ルールを学び、悲惨な交通事故に遭わないように楽しく過ごせることを願っています。

また、交通安全については幼児期から家庭教育の中で意識づけをすることが大切だということを感じました。

最後に、高齢者世帯訪問事業について報告します。高齢者世帯訪問事業は、熊本県交通安全母の会が熊本県交通安全推進連盟から支援を受け、実施しています。高齢者やその家族に面会して交通安全を訴え、交通安全意識の高揚とその普及啓発を図り、高齢者の交通事故を未然に防止することが目的です。

訪問の前に警察官に来ていただき、交通安全について事前学習を行います。この様子が左側の写真です。右側の写真は昨年この事業で配布したものです。エコバッグ、ミニタオル、反射シール、たすきと母の会手づくりのアクリルたわしを1セットにして配布しました。

熊本県では、高齢者の事故防止が緊急の課題となっています。その意味で高齢者一人ひとりに直接交通安全を呼びかけるこの事業は高く評価されています。和水町においては、交通安全だけでなく詐欺被害に遭わないような呼びかけもあわせて行っています。今年も11月から150軒を訪問する予定です。

和水町交通安全母の会は、子どもから高齢者まで、各世代に合わせた交通安全啓発活動を行っています。警察や町、他の交通安全関係団体と協力し、会員一人ひとりができることを無理なく実践しています。これらの活動を通して、和水町が交通事故のない安心・安全な町になる一助となれば幸いです。これからも一生懸命頑張ります。

最後の写真は、ことし3月に熊本県警察本部長と熊本県交通安全協会長連名による表彰を受け、町長へ報告を行った時の写真です。以上で和水町交通安全母の会の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

「事故をなくして安全な町に」

鹿児島県奄美市住用町交通安全母の会連絡協議会 会長 山田 千代子

皆さん、こんにちは。私は鹿児島県奄美市住用町から来ました山田と申します。「事故をなくして安全な町に」というタイトルですが、方言でも書いています。「はげー きゅんだか 事故のねんぬし 過ぎさし くれんしょれー」です。そういうことを願いながら活動しているところです。

少しだけ奄美の紹介をしたいと思います。左上の写真は住用町のマングローブ原生林です。毎日観光客でにぎわってしまっていて、カヌー体験が地域の活性化につながっているところです。その下の写真は、フナンギョの滝。この滝の近くに桜並木がありまして、毎年2月になりますと、フナンギョの滝と桜並木を巡るウオーキング大会が開催されます。右上の写真はルリカケスです。このルリカケスはすごい声で鳴きます。「ギャーギャーギャー」といった声で毎朝、私たちを起こしてくれます。右下は笠利町の美しい海岸です。コバルトブルーの海と白い砂浜です。

奄美大島は、2020年度の世界自然遺産登録に向けて環境保全に努めております。交流人口も増加傾向にあります。広大な亜熱帯照葉樹林にアマミノクロウサギなど多くの固有種がすむ島として知られるようになりました。

奄美大島では、笠利町、住用村、名瀬市の3つが合併しまして奄美市になりました。住用町はちょうど奄美大島の真ん中に位置しています。奄美市の10月1日現在の人口は4万3,307人、うち65歳以上が1万3,402人で高齢化率は30.95%です。私が住んでいる住用町の人口は1,248人、65歳以上が556人、高齢化率は何と44.55%です。

住用町には学校が4校あり、児童生徒数は全部で60人です。本当の小規模校です。私たち母の会の会員は133人です。

母の会は平成元年に発足しました。当時は人口も多かったので、母の会の会員も260人おりました。他県の皆さんと同じように、春、夏、秋、冬、年末年始の交通安全キャンペーンなどでの立哨活動をずっと続けてきました。しかし、交通事故はなかなか減少しません。平成26年、交通事故をなくすことを目的に、母の会が主催して地域の検討会を開催しました。行政、各集落の区長さん、地域の各種団体の皆さんに声をかけ、そこでいろいろな問題を話し合いました。

危険箇所の改善に関する陳情書を県や公安委員会に提出したり、立哨活動を毎月実施したりするなどの対策を取りました。住用町は島の中心にありますので、私たちの町を通過する隣の町や村の方々の事故も少なくありません。そうした問題にも、各町村の母の会同士、役員同士で連携して取り組んでいます。

鹿児島県交通安全母の会としては、11の事業を進めています。その中から私たち住用町が力を入れているものについて紹介したいと思います。

まず、高齢者の事故防止を目的にした「つけてますか？ 運動」というものがあります。「夜光反射材」「夕暮れ時の早めのライト」「高齢運転者マーク」を「つけていますか？」と確認する活動です。また、交通事故に遭わないための「プラス1（ワン）運動」も展開しています。これは、道路横断前に右・左・右を確認した後、道路中央線付近で「もう一度左を確認する」行動をプラスすること、夜間の歩行時は通常の服装に「夜光反射材」や「明るい服装」をプラスすることを呼びかける活動です。プラス1運動では、私たちは毎年、お年寄りに反射材をお配りし、大変喜ばれています。

飲酒運転根絶運動にも力を入れています。年末年始の交通事故防止運動期間中に、県下一斉に「飲酒運転8（やっ）せん運動」を実施します。「酒を飲んだら運転しません」「運転するなら酒はのみません」など、8つの「せん」を誓う運動です。奄美にはおいしい黒糖焼酎があり、焼酎を飲める場所も大変多いのです。その焼酎で家庭が悲惨なことにならないように、飲んだら運転は絶対にしないでくださいねと強く呼びかけています。

世代間交流事業にも取り組みました。私たちは平成28年度にこの事業を実施しました。子どもと親、高齢者が一堂に会し、交通安全という共通の目的に向かって意識を高め、交通事故防止を図ることが目的です。住用町にある3つの保育所にご協力いただきました。子どもたちによる遊戯の後、先生方が交通安全の紙芝居を見せてくれました。その後、高齢者を交えてゲームを楽しみました。その中で、夜間は黒い服では車からは見えないこと、絶対白い服を着けましょうということをお年寄りに強く訴えました。

「命を守る旗リレー」は、家庭や地域で交通安全の継続を呼びかける旗を県下の市町村間で持ち回り、交通事故防止をPRする活動です。今年、私たちは夏の交通安全運動と、命を守る旗リレーの活動を同時に開催しました。7月22日、国道沿いで170人がのぼり旗を持って交通安全を呼びかけました。

鹿児島県では毎月20日を「交通安全の日」に定めています。私たちの母の会でもこの5年間、毎月20日に立哨をして事故防止に努める活動を続けています。今では20日の立哨は地域にすっかり定着し、多くの方々が進んで協力してくれるようになりました。

最後に、これまでの成果と課題についてまとめます。

さきほど、地域で検討会を開催したと紹介しましたが、検討会のワークショップではさまざまな課題が出ました。それらの課題について要望書を作成し、県や公安委員会、奄美市あるいは支所に陳情したところ、しっかり回答がありました。ドットラインやカーブミラー、路面の減速マーキング等の設置は、検討会開催による直接的な成果でした。

立哨に気づいた車のスピードが落ちてきたり、立哨は居眠り運転の防止になるとの声が寄せられたりしたのは、街頭活動による成果だと思えます。ウォーキングの際に反射材を着用する高齢者は増えた一方、夜間の歩行は減りました。

成果は、私たち会員自身にももたらされました。立哨での声かけが自分自身の運転マナーを見直すきっかけになったと感じている会員は少なくありません。母の会の組織としても、検討会の開催などを通して、行政や警察署、関係団体と強いきずなを作ることができたと思っています。

まだまだ課題も残されています。高齢者本人もそうですが、押し車（シルバーカー）への反射材着用の呼びかけはさらに継続しなければならないと考えています。自動車のドライバーだけでなく、歩行者や自転車利用者へのマナー啓発の必要性も感じています。

高齢者の免許返納も課題です。ただ単純に免許返納を求めたところで、返還後の移動手段が確保できなければ効果は上がりません。認知症の方の運転を防ぐために、地域、家庭への協力依頼も重要です。

毎日のように痛ましい交通事故のニュースを耳にします。家族が事故やあおり運転に遭遇しないことを願いながら、気を引き締めて活動を続けています。運転者自身は気をつけていても、もらい事故等もあります。奄美は観光客が増えているため、レンタカーの事故も多いようです。車を止めて携帯電話をかけている方をよく見かけますが、駐車場所をもう少し考えてほしいなど、活動しながら感じることも多いです。

これからも結いのきずなを生かして地域で支え合いながら、「交通安全は家庭から」の考えのもと、交通事故ゼロを目指して頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。

【2日目】

講演

「地域の安全は、人々との“笑顔”から」

金沢星稜大学 人間科学部 教授 池田 幸應

46ページの東北ブロックでの講演録参照

グループ討議の結果

グループ名	グループ 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	なぜ高齢者の事故が多いのか
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・身体能力の低下が多く、運転年齢が上がってきている ・夜間の外出。信号を急いで渡る高齢者が多い ・老人クラブに加入していない高齢者がいる
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力が低下している自己認識が不足 ・横断歩道のない道路を高齢者は斜め横断する人が多い ・夜間外出が多い ・老人クラブや老人会への未加入者が多い (学習する機会がない 交通安全への認識不足)
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション体験をする(集まりにくい各団体で実施) ・点滅時の横断を止め、次の青信号まで待つ(危ない高齢者に注意する) ・夜間外出は極力止めさせるか色の明るい服装や反射材を身に付ける ・高齢者世帯訪問を地道に継続する ・車にドライブレコーダーの設置や高齢者マークを貼る ・免許返納を呼びかける

グループ名	グループ 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	・高齢者と母の会のつながり ・免許返納 ・歩行時の事故
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と一緒に街頭に立ち、啓発活動 ・主婦として高齢者に目立つ服装や反射タスキをつけさせる ・免許返納は本人の変化に気づいた家族が本人を傷つけないように勧める
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・横断報道を渡らず横断 ・午後5時から7時の夕暮れ時の事故が多いことを本人に理解してもらう ・認知症検査を3年に1回から1年に1回にしたらどうか
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・家族に明るい服装の色見本をもたせる ・夕暮れ時は目立つ服装にしてもらう ・横断歩道は手を挙げて渡るようすすめる ・免許返納は同居人の見守りが大切である ・免許返納後の不安は全力でバックアップすることが重要

グループ名	グループ 通学時間帯の街頭活動における課題と対応
討議テーマ	下校時間帯の見守りについて
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時、子ども見守り隊が見守る ・下校を知らせる放送で学校側が地域に見守りを依頼 ・学童保育は保護者がお迎え ・下校時間帯に家の外に出て水やりや掃除をして交通事故や防犯に役立っている。(声かけ運動の実施)
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動を手伝う人が少ない ・PTAや防犯、交通、母の会など各団体が独自の活動のため連携がない
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を持たない人や高齢者に声かけを依頼し協力者を増やす ・家にいる人が下校時間帯に外に出て見守る地域全体での体制づくり ・学校と積極的に連携し、通学路の危険箇所の点検 ・見守り隊員に学校長から感謝状の贈呈 ・子どもをみたら声かけを行う

グループ名	グループ ボランティア団体の運営における課題と対応
討議テーマ	ボランティア活動の「人手不足」
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動(交通安全週間)への参加(立哨) ・プラス1(ワ)運動、飲酒運転根絶キャンペーン、世代間交流事業「命を守る旗リレー」活動(年間48地区) ・交通安全フェアの開催 ・老人世帯個別訪問の実施 ・交通安全グッズ作成:かえる、まもる、エイサ太鼓 ・毎月の立哨活動
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・活動メンバーの高齢化(若い人が加入しない) ・ケガ等の保険の問題 ・活動に対して興味を持ってもらえない ・婦人会(=母の会)メンバーのため働き盛りで活動に参加してもらえない
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習や立哨活動に参加してもらうため、免許取得者および免許がなくても活動に興味がある人に参加の声かけをしている ・PTA活動終了前の世代に参加の呼びかけを行う ・活動日を二か月前に知らせ、勤務シフトの調整をしてもらい参加を依頼 ・定年時の公務員に地域ボランティアの活動への依頼を自治体から促す ・新聞、テレビ、ラジオ等の広報を利用してボランティア活動を紹介 ・全てに共通する「声かけ」運動強化 ・参加するまで「大変だ」と言っていた人が、参加して「良かった」に変化

講評 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男

それでは私の方から、今回の講習会の講評をさせていただきたいと思います。昨日は4県から活動事例のご発表をいただき、その後グループ別交流をしていただきました。そして本日は池田先生より地域や家庭のかかわりについて、そして子どもは地域の宝であるという大変熱心で熱意のこもったご講演をいただき、大変よかったと思います。その後また皆さんでグループ討議をしていただいて、大変実りある講習会だったなと思っております。

昨日から本日この時間に至るまで、皆さんはいろいろな方から本当にすばらしい話を伺って多くの知識を共有できたと思うのです。こうやって皆さんがいろいろな知識を共有して、共通項をたくさんつくったと思うのです。私、実は昨日、佐賀県の三苦様からの活動事例発表の中で、大変感銘を受けたある言葉があるのです。今、私は共有ということが物すごく大事だと申し上げました。母の会の役割は学校で交通安全教育をする役割とは違う役割があり、みんなが違う役割を演じ、そこで相互に補完し合うという、もう1つ人間関係を維持する上で非常に大事な異質項があるのです。昔の話をして申しわけありませんが、ジンメルという大変偉大な社会学者がいました。私は昔、中央公論社の「世界の名著」にも入っておりますがジンメルの「社会文化論」という本を翻訳したのですが、その中でジンメルも同じことを言っているのです。それは人間関係を密にするには、みんなが同じことを考え、同じような生活をし、同じような思想や知識も一緒に持っている。このような共通項が非常に大事なのですが、実はそれだけでは人間関係は普通維持できない。人間関係を維持するにはお互いに違う存在だという異質項が同時にないとだめなのだということなのです。

例えば夫婦を考えてください。結婚するわけですから、男性と女性、共通項がたくさんあるわけです。それでお互いに結婚し合うわけですが、基本的に男と女は違うのです。つまり、男と女が違うからこそ、男の役割と女の役割があって、そこで相互に補完し合って、すばらしい共通項が出てくる。昨日から人間関係を維持する上でコミュニケーションが大事だというお話が皆さんの中で出ておりました。実はコミュニケーション、人間の対話とはAさんとBさんがいて、AさんとBさんが持っている情報をお互いに交換し合うのがコミュニケーションですね。その時、一番スムーズに情報交換ができるのは、AさんとBさんの持っている情報との間に共通している部分がすごくたくさんあるとコミュニケーションはうまくいくのです。では、そのコミュニケーションとは何かといったら、共通していることを幾ら相手に伝えても、それはもともとお互いに共有しているわけですから何の意味もありません。コミュニケーションとは、お互いが共通していることをできるだけたくさん持っている上に立って、今度は相手にない情報を提供していくこと。これがコミュニケーションなのです。だから、コミュニケーションをするためには、さっきこちらで申し上げたことと同じことですが、共通項がたくさんあって異質項がたくさんないと実はコミュニケーションはできないのです。

ところが、こうやって最初のうちは共通項がたくさんあって、異質項がたくさんある環境の中でコミュニケーションをしていくのですが、だんだんお互いに共通項が増えていってしまう。そうすると、共通項がどんどん増えるのはいいのですが交換すべき情報がなくなってしまいます。これが夫婦関係であらわすと倦怠期というものなのです。倦怠期はまさにこれなのです。

では、倦怠期が来ないようにするにはどうしたらいいか。それは共通項がどんどん増えていく以上に、AさんとBさんがそれぞれお互いにいろいろな情報を取り入れて、それで異質項をどんどん増やしていく。そうすると、共通項が増える以上に異質項が増えますね。実は異質項が増えることによってコミュニケーションがますますうまくいくわけなのです。

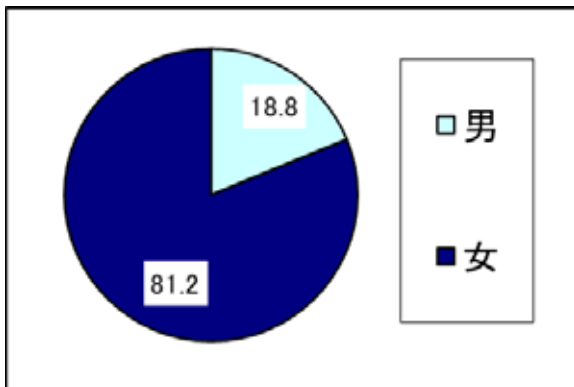
私は昨日からずっとお話を伺わせていただいて、皆さんの共通項がどんどん増えていくの

が素晴らしいことだと思いました。しかし、もう1つ大事なことは、それぞれが異質項をどうやって増やしていくか。つまり、本日の池田先生のお話にもありましたが、地域には地域特有の特徴がある。それぞれ特有の個性を持っている交通安全の団体が、お互いに違う部分を発揮し、相互に補完し合い、そして役割を演じ合う。そういうことを理想としていかないといけないのではないかということを感じて持ちました。

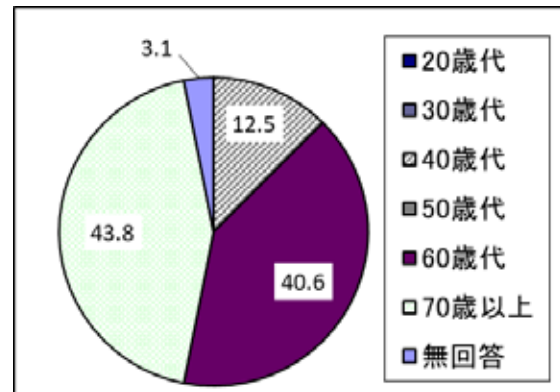
このような講習会で、お互いこんなに違う部分があるのだなということをお考えいただくことも大事ですけれども、それぞれの団体がそれぞれの団体の個性を確認して、ひとつの役割を演じていただきたいと考えております。以上で私の講評とさせていただきます。大変ご熱心にご参加いただき、ありがとうございました。

3. アンケート集計結果

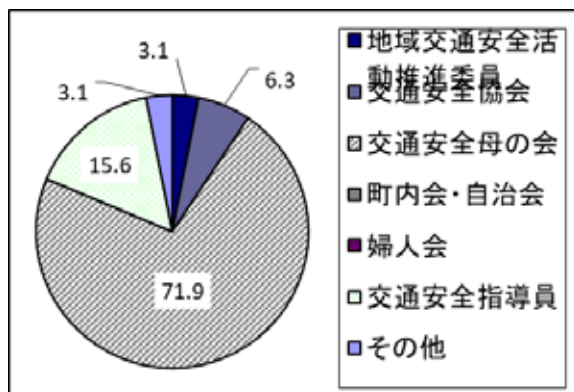
1. 性別



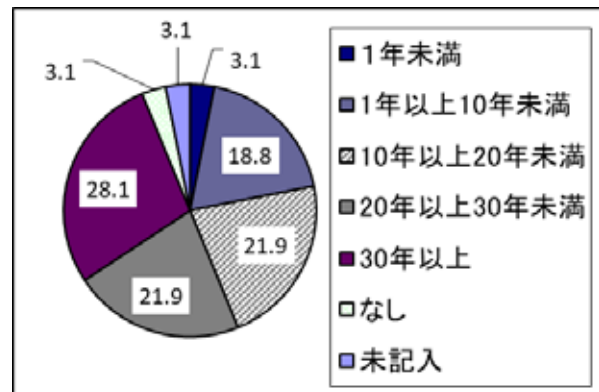
2. 年齢



3. 所属団体

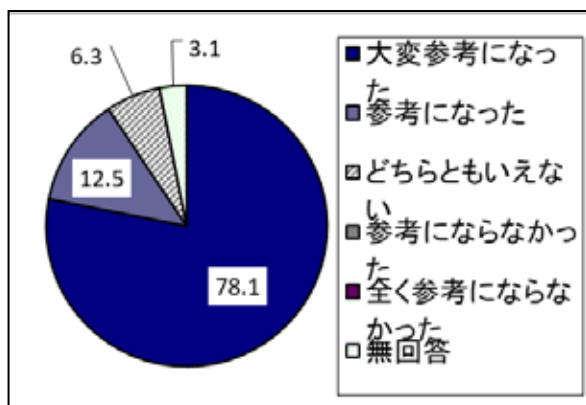


4. 活動年数

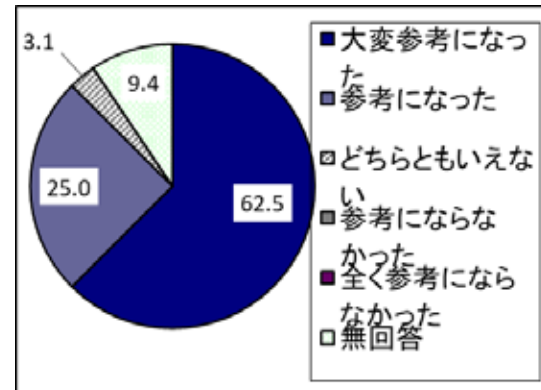


5. 評価

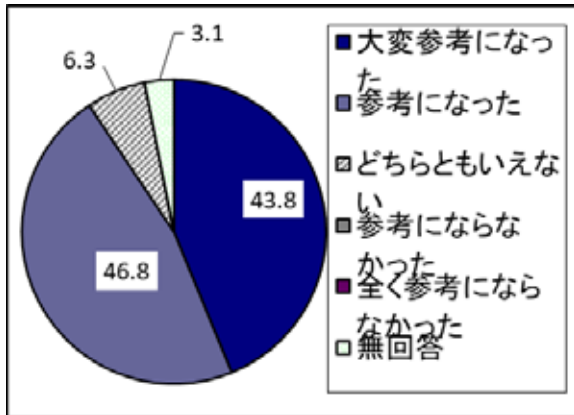
[講演 講師：鈴木春男先生]



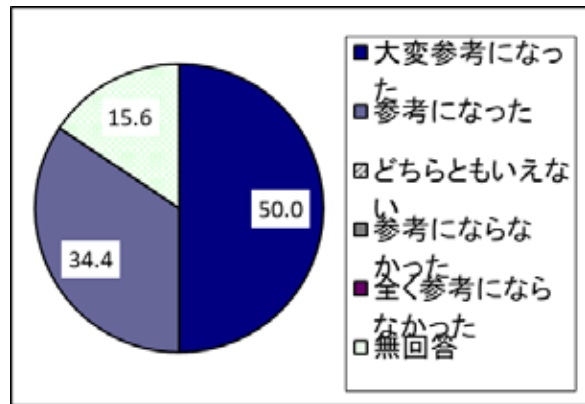
[講演 講師：池田幸應先生]



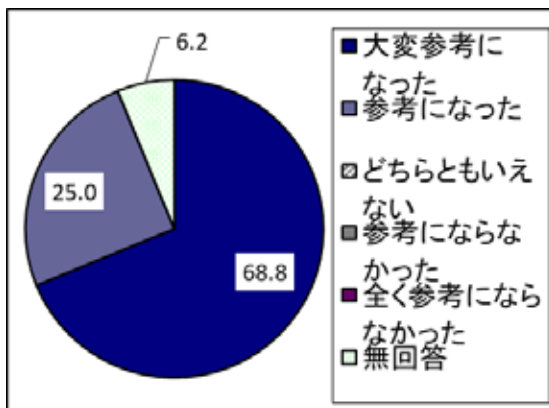
6. 活動事例発表



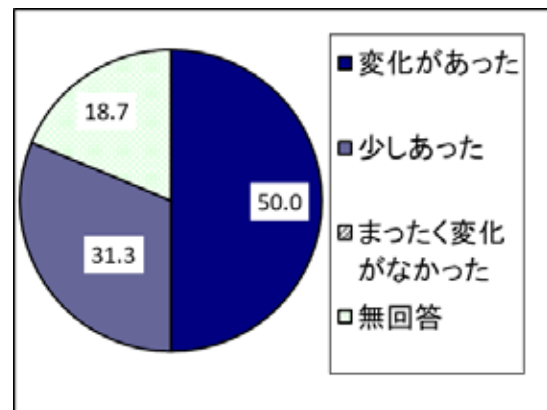
7. グループ討議



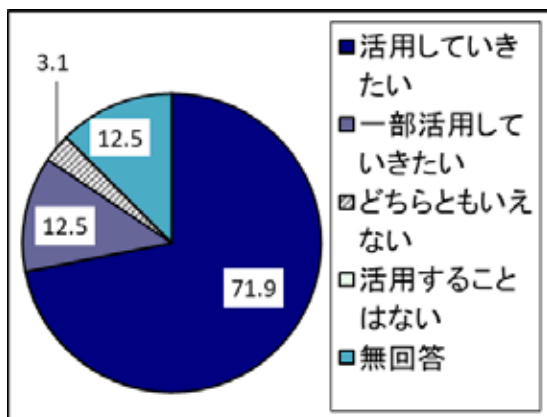
8. [総合評価 (講習会全体として)]



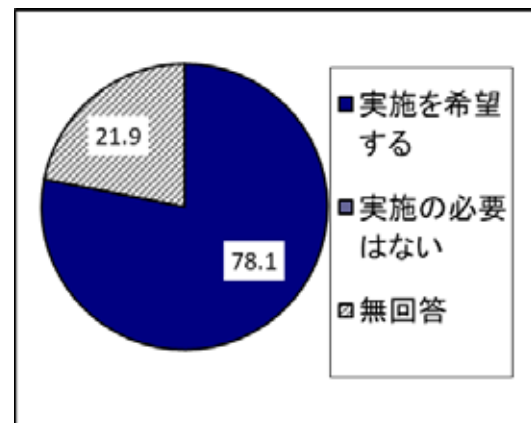
9. 講習会参加による意識の変化



10. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



設問6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 交通事故被害者の話
- ・ 免許返納の課題
- ・ 路上寝防止について
- ・ 自転車における交通ルール、マナーアップの方法
- ・ 交通マナー、譲り合い運転について(私の地域では車は必須ですがマナーを守らない人が多いので)
- ・ 各県の活動内容をさらに幅広く知りたい

設問9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 交通事故はどこで起こるか分からない。「他人事ではない」ということを意識できる身近な勉強会が必要
- ・ なぜボランティア活動が必要なのか。地域での講習会を増やす
- ・ 多くの会議、地域での会合の場で話し合い、雑談を交わしながら身に付けていく
- ・ 私達の活動にどう関心を持たせるか。地道に活動するのみ
- ・ 地域での広報活動をもっとすすめる
- ・ 車の販売会社による実車を使っての事故防止対策。JAFによる実際の事故事例の紹介
- ・ 今回のような他県の活動内容を知ることが重要。良い事例を取り入れること

設問10. 講師への質問・意見等

鈴木春男先生

- ・ 大変素晴らしい講義ありがとうございます。リーダーの意識を高めていきたいと思う(3)
- ・ リーダーシップについて大変参考になりました。もっと話を聞きたかった(3)
- ・ やさしくてわかりやすい話に心を奪われた
- ・ 免許返納後の解決策を教えて欲しい。最も近いスーパーまで3kmあるので他者に頼るわけにもいかない
- ・ 実践できそうなわかりやすいお話だった。もっと話を聞きたかった

池田幸應先生

- ・ これからも“笑顔”を心がけたい。ありがとうございました
- ・ とてもわかりやすいお話だった。他の分野にも生かしていきたい
- ・ すばらしいお話だった。まるで学生に戻ったような気持ちで聞いていた
- ・ 先生ご自身が身をもって活動されていることに敬服
- ・ 地域の安全と笑顔のつながり。本当に大事なことだと思った。宝である子ども達を大切にしたい

設問 12. その他の意見・要望

- ・ 他県の方との交流が大変勉強になった
- ・ 各県ごとの講習もあるとなお良いと思う
- ・ 初めての参加だった。学んだことを地元を持ち帰り地元で情報共有したい
- ・ 講師の話や他県の活動事例など大変参考になった。交通安全フォーラムにも参加した
- ・ 75歳からの認知症検査を1年に1回へ法制化しては？家族が“おかしい”と思っても本人は認めない。車がないと不便なため運転は続ける。何も問題なければ90歳になっても楽しく運転できると思う
- ・ 高齢者の免許返納後の生活手段や過ごし方の方法をしっかり検討すべきだと思う
- ・ 会場が狭かった。グループ討議は別室の方が良いのでは
- ・ 今回、PTAとして参加した。他団体の方との意見交換が大変うれしかった

4. 記録写真



開会挨拶（内閣府 茅根参事官補佐）



講演 鈴木春男先生



講演 池田幸應先生



活動事例発表



グループ討議



討議結果発表